
[SP 改] ビュー制御機能

FOR SHAREPOINT 2019

管理者マニュアル

1.0 版 2023 年 3 月 17 日

株式会社アンク



目次

稼働環境.....	2
インストール.....	3
アップグレード.....	4
アンインストール.....	6
ログ出力設定.....	7

稼働環境

『[SP 改] ビュー制御機能』は、以下の環境で動作します。

- Microsoft SharePoint Server 2019

※日本語のサイトでは、本機能は日本語で表示されます。

※日本語以外のサイトでは、本機能は英語で表示されます。

インストール

以下の手順でインストールします。

1. ソリューションの追加

PowerShell の Add-SPSolution コマンド)を使ってソリューション ファイル「ASK.ViewManager.wsp」をソリューション ストアに追加します。

例)

```
Add-SPSolution -LiteralPath c:\ASK.ViewManager.wsp
```

ソリューション ファイルの詳しいインストール方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考になしてください。

Add-SPSolution

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ff607552.aspx>

2. ソリューションの展開

PowerShell の Install-SPSolution コマンドを使ってソリューションを展開します。

例)

```
Install-SPSolution -Identity ASK.ViewManager.wsp -WebApplication  
http://SharePointServer/ -GACDeployment -CompatibilityLevel All
```

ソリューション ファイルの詳しい展開方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考になしてください。

Install-SPSolution

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ff607534.aspx>

3. 機能の有効化

本機能を利用するサイトの、トップ レベル サイトの [サイトの設定] 画面から [サイト コレクションの機能] ページを開き、『[SP 改]ビュー制御機能』を「アクティブ」にします。

アップグレード

既に本機能の以前のバージョンがインストール済みの環境に、新しいバージョンを適用する場合には、以下の手順でアップグレードします。

1. ソリューションのアップグレード

PowerShell の Update-SPSolution コマンドを使ってソリューション「ASK.ViewManager.wsp」を更新（ジョブを投入）します。

例）

```
Update-SPSolution -Identity ASK.ViewManager.wsp -LiteralPath  
c:\ASK.ViewManager.wsp -GACDeployment
```

ソリューション の詳しいアップグレード方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考になしてください。

Update-SPSolution

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ff607724.aspx>

2. PowerShell の Start-SPAdminJob コマンドを使って投入済みのジョブを実行します。

例）

Start-SPAdminJob

注意：ジョブが自動実行設定されている場合、このコマンドはエラーとなります。自動的にジョブが実行されるため、エラーは無視して問題ありません。

ジョブの詳しい実行方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考になしてください。

Start-SPAdminJob

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ff607833.aspx>

※アップグレード時の注意点

アップグレードの操作中に、自動的に IIS が再起動されます。自動的に再起動されない場合には、IIS マネージャや IISReset コマンド等で IIS の再起動を行ってください。

IIS 7.0: アプリケーション プールをオンデマンドでリサイクルする

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/cc770764%28WS.10%29.aspx>

3. ソリューションの再展開

PowerShell の Install-SPSolution コマンドを使ってソリューションを再展開します。

コマンド実行後、手順 2 の Start-SPAdminJob を実行してください。

例)

```
Install-SPSolution -Identity ASK. ViewManager.wsp -WebApplication
```

```
http://SharePointServer/ -GACDeployment -CompatibilityLevel All -Force
```

注意：ソリューションインストール中に上記コマンドを実行すると実行中エラーが発生します。時間を置き、処理が終了した後再度実行してください。

ソリューション ファイルの詳しい展開方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考になしてください。

Install-SPSolution

<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ff607534.aspx>

アンインストール

以下の手順でアンインストールします。

1. 機能の無効化

本機能を利用しているすべてのサイトの、トップ レベル サイトの [サイトの設定] 画面から [サイト コレクションの機能] ページを開き、『[SP 改]ビュー制御機能』を「非アクティブ」にします。

2. ソリューションの取り消し

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定] から [ファーム管理] セクションの [ファームソリューションの管理] ページを開き、「ASK.ViewManager.wsp」を すべての Web アプリケーションから取り消します。

※アンインストール時の注意点

必ず『[SP 改]ビュー制御機能』を“非アクティブ”にしてから、展開の取り消しを行ってください。

3. ソリューションの削除

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定] から [ファーム管理] セクションの [ファームソリューションの管理] ページを開き、「ASK.ViewManager.wsp」を削除します。

ログ出力設定

不具合調査等で、ログを出力したい場合は以下の手順でトレースログ出力の設定を行ってください。

※ログの出力は、他の SharePoint 機能やサービスと同じ様に「診断ログ」として出力されます。そのため、十分に運用計画を行ってから設定してください。

※ビュー制御機能のトレースログは、[Area]属性 が「ASK.ViewManager」で出力されます。

1. [サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの [監視] から [レポート] セクションの [診断ログの構成] を表示します。
2. [記録されるイベントの設定] の設定を行います。
 - [カテゴリの選択] に表示されているツリービューで、[SharePoint Foundation] ノードを展開します。

記録されるイベントの設定

これらの設定を使用して、Windows イベント ログおよびトレース ログに記録されるイベントの重要度を制御します。重要度を下げると、記録されるイベントの数が増加します。

1 つのカテゴリの設定を変更することも、すべてのカテゴリの設定を変更することもできます。すべてのカテゴリを更新すると、個々のカテゴリの変更内容が失われます。

カテゴリの選択

カテゴリ
☐ すべてのカテゴリ
☐ Access Services
☐ Access Services 2010
☐ Business Connectivity Services
☐ Document Conversions
☐ Document Management Server
☐ eApproval
☐ Education
☐ Excel Services Application
☐ InfoPath Forms Services
☐ Office Automation Services
☐ Office Services Infrastructure
☐ PerformancePoint Service
☐ Search
☐ Secure Store Service
☐ Services Infrastructure
☐ SharePoint Express
☒ SharePoint Foundation
☐ SharePoint Foundation Search

- 展開された子ノードから [Web Parts] のチェックボックスにチェックを入れます。

☐ SharePoint Foundation		
☐ 通知	情報	中
☐ アプリ認証	情報	中
☐ アプリの展開	情報	中
☐ アプリ ホスティングのクォータ管理	情報	中
☐ アプリ管理	情報	中
☐ アプリ Marketplace	情報	中
☐ アップグレード	情報	中
☐ 利用状況インフラストラクチャ	情報	中
☐ ユーザー設定のプロバイダー	情報	中
☐ Web コントロール	情報	中
☐ Web パーツ	情報	中
☐ WOPI	情報	中
☐ ワークフロー サービス	情報	中

- [トレースログの記録対象となる重要度の最も低いイベント] で、「高」を選択します。

イベント ログの記録対象となる重要度の最も低いイベント

トレース ログの記録対象となる重要度の最も低いイベント

高

3. [トレースログ] で、トレースログが保存される場所、保存するログファイル数、1 つのログファイルを使用する時間を設定することができます。

トレース ログ トレースを有効にすると、トレース ログを特定の場所に保存することができます。注意：ファームのすべてのサーバー上に存在する場所を指定する必要があります。 他に、ログ ファイルの最長保存日数を設定したり、ログに使用するディスク領域の最大容量を制限することができます。トレース ログの使用に関する詳細	パス %CommonProgramFiles%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\16\LOGS% 例: %CommonProgramFiles%\Microsoft Shared\Web Server Extensions\16\LOGS ログ ファイルの保存日数 14 トレース ログのディスク領域の使用を制限する ☐ トレース ログのディスク領域の使用を制限する トレース ログの保存容量の最大値 (GB) 1000
---	--

4. [OK] ボタンをクリックし、設定を完了します。

以上